

# 令和6年度滋賀県認知症フォーラム 実践・研究事例発表の募集について

★滋賀県では、下記のとおり「滋賀県認知症フォーラム」を開催します。  
本フォーラムで発表いただく演題を募集しますので、ぜひご応募ください！

## ★滋賀県認知症フォーラムとは？

県内で認知症に関わる全ての方を対象として、現場での活動、実践事例や研究等を発表する場です。発表していただいた内容をもとに、参加者の皆様と取組に対する理解を深め、認知症に関する医療、介護、福祉の情報発信の場となることを目的としています。

認知症についての取組みの発表を通じて、多職種で直接意見交換することができます！  
ぜひご応募ください！



## ▶ 令和6年度 認知症フォーラム演題募集 概要

開催日時： 令和7年1月26日(日) 13:30~17:00

開 場： 滋賀県庁 新館7階大会議室

参加方法： 会場参加

### 1. 募集する発表内容

○滋賀県内における「認知症の医療・介護・福祉」に関する現場での活動、実践事例や研究等

### 2. 発表対象者

○滋賀県内において、認知症の医療・介護・福祉に関する業務、活動、研究を行っている方  
(医療・介護・保健・福祉・行政関係者・教育関係者・学生・団体関係者・その他認知症医療・介護・福祉に関する活動を行っている方など)

### 3. 発表方法等

○パワーポイントを用いたステージ発表：8演題

発表内容をパワーポイントにまとめ、1演題あたり15分(発表時間10分、質疑応答5分)で、ステージ上で発表していただきます。

○事務局において発表スライドを紙面に印刷し、開催時間中、会場内に掲示します。(全演題発表終了後、参加者同士の交流の時間を設ける予定です。その際、発表者の方については、ご自身のスライドの前で追加の質疑応答や意見交換にご対応いただく予定です。)

○発表内容の概要を「発表要旨集」としてまとめ、参加者に配布します。

### 4. 発表演題の申込み方法、発表演題の採択

○別紙「演題申込書」にテーマ、内容の概要等の必要事項をご記入のうえ、令和6年9月13日(金)中に下記事務局あてにメールでお申し込みください。2~3日以内に事務局から受付済みの返信をいたします。

○募集期間終了後、事務局および令和6年度滋賀県認知症フォーラム運営会議(以下、「運営会議」という。)において、上記「演題申込書」の記載内容を確認し、発表していただく演題を決定いたします。確認結果については、令和6年10月11日(金)を目途に応募者へ連絡します。

## 5. 発表要旨原稿提出

- 発表演題申込後、発表要旨原稿(発表内容の要点をまとめたもの)を令和6年10月11日(金)中に下記事務局あてにメールでご提出ください。
- 提出いただいた発表要旨は、運営会議で内容を確認後(内容によっては事務局より修正を求める場合があります)、「要旨集」の原稿として印刷します。
- 提出にあたっては、必ず別紙「令和6年度認知症フォーラム<申込みにあたっての注意事項>」をよく確認し、「発表要旨原稿 提出時チェックリスト」を添付してください。

## 6. 発表用データ等について

- 発表内容をパワーポイントにまとめ、12月25日(水)中に事務局あてメールでご提出ください。

## 7. お問い合わせ先、演題申込書・発表要旨原稿等の提出先

- 滋賀県認知症フォーラム事務局(滋賀県医療福祉推進課 在宅医療福祉・認知症施策推進係)  
住所:〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号  
電話:077-528-3522/FAX:077-528-4851  
メール:ninchisyo@pref.shiga.lg.jp

### ■滋賀県ホームページにも掲載しております。

滋賀県 > 県民の方 > 健康・医療・福祉 > 高齢者福祉・介護 > 認知症施策の推進について > 4. 認知症関連施策・取組  
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryouhukushi/koureisya/338317.html>

## ▶ (参考) 令和5年度開催状況

発表演題数	14演題 病院、認知症疾患医療センター、デイサービス、グループホーム、警察、介護家族、認知症カフェ代表者など、様々な分野・職種の方に発表いただきました。
参加者数	151名 (一般参加125名、発表者14名、その他12名) 【医療分野】医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士、作業療法士 など 【介護分野】介護福祉士、介護士・介護職、介護支援専門員(主任介護支援専門員)、社会福祉士、相談員・相談職、介護保険事業所の管理者 など 【その他】警察官、民生委員・児童委員、家族の会、キャラバンメイト など
発表者・参加者からの声 (アンケート抜粋)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 多職種や多機関が”認知症“というテーマをもとに集い、意見をかわせる良い場だった。(発表者)</li><li>● 発表するにあたり、チームの取り組みを振り返ることができた。また、今後取り組むべきことが見えてきた。(発表者)</li><li>● 多種多様な職種や立場の方が参加しているため、様々な専門的な意見や取り組みを聞くことができた。(一般参加者)</li><li>● 前向きに取り組んでおられる様々な方のお話を聞くことで、自分も小さなことから始めてみようと思えた。(一般参加者)</li></ul>